

# まちづくり・・・ための「チームづくり」

## ～ 地方都市における都市デザインの実践と建設コンサルタントの役割～

昭和設計株式会社 技術センター 都市デザイン研究室長 飯田爾雅

### 【発表概要】

静岡市の中心市街地に誕生した「ガス灯のある広場（通称：八幡テラス）」について、実現に至る公民連携の取り組みと、昭和設計株式会社が果たした役割を整理する。

本広場は、都市計画マスタープラン等の位置付けが無い中、民間企業の建替え、地元のまちづくり活動、行政の道路事業などを空間的、時間的に摺り合わせることで、一体感があり、地元に使い続けられる広場として具現化できた。

昭和設計株式会社は、市の道路整備に係る委託をきっかけに関わりを持ち、これまでに積み上げてきた実績や縁をもって、多様な関係者の意向を調整し、「ガス灯のある広場（通称：八幡テラス）」の実現に貢献した。今後も続いていく久能街道のまちづくりの、一つの到達点としてここに報告する。

### 1. はじめに

平成30年3月、静岡市の久能街道（県道高松日出線）の一角に、公民連携の取り組みで「ガス灯のある広場（通称：八幡テラス）」が誕生した。

久能街道は、JR静岡駅から東方約500mに位置し、市の中心部を南北に縦断する4車線道路である。静岡大火の後に延焼遮断帯として整備された市内最大級の幅員の36m、中央分離帯にケヤキ並木が生え揃い、両側に幅員6.5mの歩道を有する、市内唯一のブルバールとも言える。

広場を構成する事業は、静岡ガス株本社の建替え、NHK静岡放送会館の新設、加えて、両施設間の道路における電線類地中化（CCB）や車道の狭窄化及び歩行空間の確保、久能街道における電線類地中化と歩道整備および自転車走行空間整備、及び歩道のケヤキ並木の整備とガス灯の導入である。

本広場の整備に対し、都市計画マスタープラン等における上位関連計画の位置付けは無く、また、地区計画等の拘束力のあるルールも無い。地権者等による全体組織も設けず、相互に関連付けながら、調整し、実現した。



図-1 位置図



□静岡ガス㈱本社前



□静岡ガス㈱本社とNHK静岡放送局の間の道路

図-2 ガス灯のある広場（通称：八幡テラス）

## 2. きっかけとなった道路整備（CCB &自転車道）

静岡市は、第6期電線類地中化計画に位置付けた、久能街道（高松日出線）の延長550mについて、平成22年度に予備設計を開始、平成25年度より電線共同溝方式による電線類地中化工事に着手し、平成29年度に電線共同溝設置工事が完了した。

以降歩道整備工事、自転車走行空間整備工事を行い、平成32年度の事業完了を目指している。

## 3. 「みちづくり」から「まちづくり」へ

平成22年度、本事業に係る予備設計等を昭和設計が受託し、検討を開始した。

昭和設計㈱は、以前にも、久能街道が縦貫する八幡町内会にある森下公園で、地元WSを重ねてリノベーションを実施した縁から、かねてより地元と付き合いがあり、度々、町内会長の心配を聞く機会を通じ、地元企業として地域に役立ちたいという想いを抱えていた。町内会長から投げかけられた心配事は、高齢化の一方で、近隣の店舗が次々と店を閉じ、買い物すらままならない。空き家や空き地が増え、一部がマンションに代わり、古くからの人のつながりが希薄になりつつあるなどであった。

機を同じくして、南幹線で整備が止まっていた久能街道の南方向への延伸（都市計画道路日出町高松線）が事業化されることになった。久能街道の延伸により、駿府城公園から、駿河区役所や静岡新聞社等が立地する駿河区の地域拠点まで、市の南北を結ぶ広幅員道路が完成することとなる。昭和設計㈱は、この道路整備に対し、コンサルタントとして、沿道利用の活発化への期待の一方、地域性と乖離するロードサイド型の店舗やタワーマンションなどによる乱開発を懸念し、行政や地元に伝えた。

また、都市計画道路日出町高松線の南方向への延伸については、かつて、都市計画道路築造を含む形で土地区画整理事業が計画されたものの、2度頓挫した経緯があり、その後街路事業単体による整備が計画された。このため、地元は沿道利用や防災面に不安を持っていた。道路整備を進める行政の担当課も、過去の仕事における道路整備の効果や地元の受け止め方に疑問を持っていた面があり、「道ができる、街が死んだ」とならないための、道路整備とまちづくりとの協力の必要性について意識をもっていた。

このような背景から、昭和設計㈱の提案を市が受け止め、電線類地中化に係る業務の範囲で、道路空間のあり方を検討する、住民参加の「みちづくりWS」の実施に至った。

さらに、地元住民のまちづくりへの問題意識に呼応する形で、住民主体の「まちづくりWS」を開催したが、まちづくりWSは、検討領域が業務内容から大きく踏み出すことも想定されたため、担当課と協議し、了解を得たうえで、業務外として昭和設計㈱が運営を支援した。

ここには、みちづくりWSから引き続き、沿道に本社を構える静岡ガス㈱とともに、市の担当課もオブザーバーとして出席し、共に協議した。

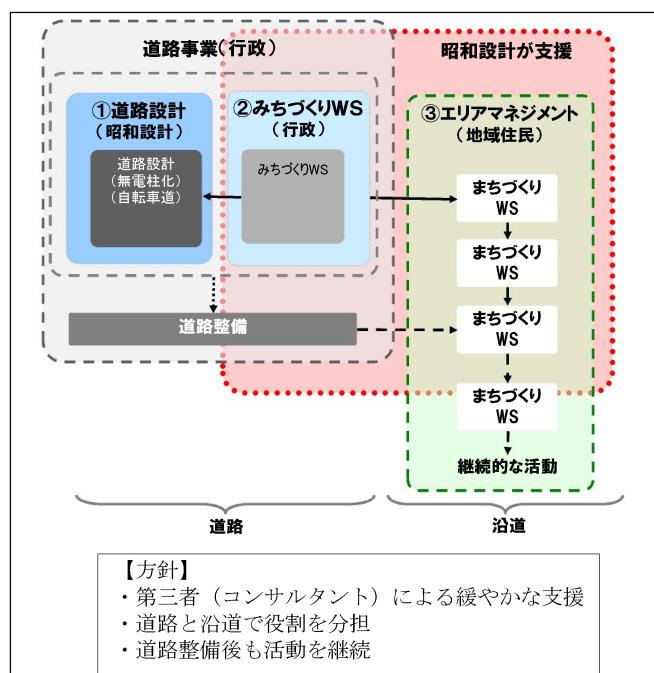


図-3 みちづくりWSとまちづくりWSの区分

#### 4. 公民連携、民活、そしてエリアマネジメントへ

久能街道の電線類地中化等の委託期間終了後、引き続き「まちみがき」に取り組みたいとの地元からの要請に応え、勉強会を継続することとした。先ずは、自分たちの言葉で地域のまちづくり表現ができるようになることを目指し、町内会長さん達数人の有志で「久能街道まちみがき研究会」を組織した。この組織化と勉強会の運営を昭和設計㈱が支援し、月に一度の割合で勉強会に参加するとともに、先進地視察や学識による講演会などを企画し、研究会員のまちづくりに対する理解に努めた。

一方、昭和設計㈱も、この地域のまちづくりの支援とともに、「静岡のまちづくりに貢献する」ため、ここをモデルケースとして、今後のまちづくりのあり方を探ることを意図し、地元で、かねてよりまちづくりにも積極的に関わってきた企業組合針谷建築事務所に協力を仰ぎ、「N P O 法人静岡都市デザイン機構（略称：S U D S）」を立ち上げた。N P O 法人は、都市再生推進法人を目指したもので、当初は、関係者との協議や調整のための信頼の獲得、行政への計画提案を念頭に入れていた。

このような活動を進める中で、静岡ガス㈱より、本社の建替えを行うこと、それも、久能街道に面して広場やショールームを配置するプランで検討していることが知らされた。それと併せて、本社と、一方通行の道を挟んで並んでいた同社ショールームの敷地に、N H K 静岡放送会館の移転が計画されており、静岡ガス㈱と同様の設計思想（前面広場など）を期待しているという旨の報告を受けた。

このような打合せの中で、両施設を一体で利用できれば、災害時の拠点として、また、日常的な広場利用にも有益であることから、両施設の間の道路についても電線類地中化や適切な舗装が望ましいと議論され、市の担当課に相談をかけ、実現化に向けた準備を進めることとなった。

一方、みちづくり WS の段階から、地元からも「久能街道にガス灯が設置できないか」との希望が出されており、これについて、S U D S から静岡ガス㈱に実現化に係る検討を依頼した。

#### 5. N P O 法人静岡都市デザイン機構の理念

S U D S は、久能街道における「都市デザイン」の実践等を通じ、静岡で都市デザインを機能させ、当たり前にすることで、静岡のまちづくりに貢献することを目指して立ち上げた。

都市デザインの実現により、バラバラに行われがちな、公民のプロジェクトを適切に関連付けることで、より良いものをつくることができる。これにより、「公民双方の投資効果の最大化」を図るとともに、次のまちづくりの動きにつなげることに重要性を認識した。

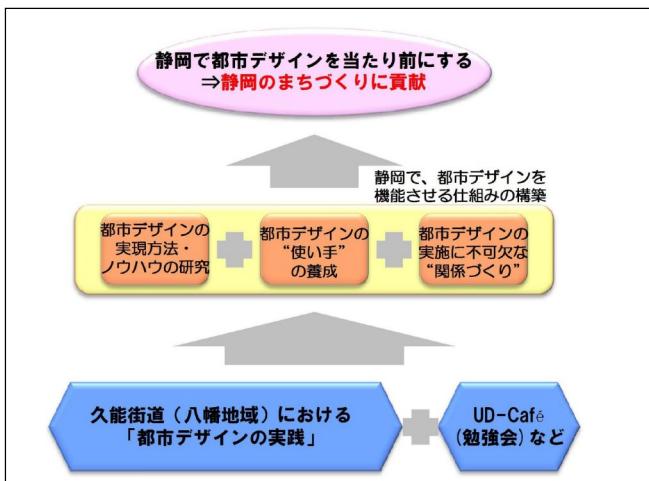


図-4 N P O 法人静岡都市デザイン機構の理念

この際、都市デザインの実践手法として『公民連動型まちづくり』を構想した。これは、「ますます貴重になるが、少なからずある公共事業や民間投資を大切に扱い、拡げることで、地方都市でも良質な都市空間の実現」を目指したものである。「プロジェクト指向」を軸に、「まちづくりの動きを見つけ、関連付けを構想し、流れを組み立て、働きかけ合い、動かす」といった進め方を想定する。

また、これを動かすために「都市デザインの共有でつながる多様な人・組織が、プロジェクトに応じ連動」する体制が必要であると考える。「関係機関をつなぎ、方向性を持つ動きを生む「働きかけ(アクション)」」を担うことを、S U D S の役割とした。

## 6. 成果

昭和設計㈱が、平成22年から電線類地中化等の業務で久能街道に関わり、足掛け8年、地元住民、沿道企業、行政の関係各課との連動により、久能街道のまちづくりの一つの成果として「ガス灯のある広場」の完成を見た。

N H K 静岡放送局が静岡ガス㈱の期待に応え、市は民間の動きに呼応した空間整備を行い、地元も意気に感じて活動を続け、静岡ガス㈱は地元への貢献として31基のガス灯を寄贈した。みちづくりW S から始まった、地域住民との協働の中で、住民側から沿道に植えるケヤキをめぐり、落ち葉の清掃への協力の申し出があり、また、ガス灯のある広場において、静岡ガス㈱やN H K 静岡放送局と連携した定期的な利用が実現している。

また、久能街道まちみがき研究会では、検討成果を「まちみがき憲章」としてまとめた。

このような折、久能街道の沿道でマンションの建設について住民説明会があり、参加住民から研究会及び憲章の存在が事業者に伝えられた。これを受け、事業者と久能街道まちみがき研究会及び昭和設計㈱（S U D S）で調整を行い、事業者は沿道に計画していたバイク置き場を広場化するなど、まちづくりへの協力を快く受けた。このような動きは、今後の可能性を期待させるものと認識した。

## 7. 効果と可能性、コンサルタントの役割

本プロジェクトを通じ、都市デザインで、民間企業の開発等の動きやまちづくりへの関心、地元住民の地域への想い、行政の仕事への情熱を継り集め、実体のまちづくりに帰結できることを実証した。

特に、今回のプロジェクトでは、行政の事業部隊が重要な役割を果たしている。電線類地中化の計画への位置付け、防災面に着目した舗装の理論武装、設えに係る予算措置、民間など関連プロジェクトとの時間的空間的すりあわせなど、実施には多くの課題をクリアする必要がある。このような課題に、主体的に取り組む行政マンの姿勢に、現場からの発想が適切に計画に反映され、尽くされた努力に相応しい空間の形成と評価へと結び付く環境をつくることの重要性を再認識した。

多くの関係者の関与は、立場の違いによる価値観、スピード感、作法や流儀、メンタリティの差異を生む。それぞれの立場を理解し、共感し、通訳して仲をとり持つことに、地元のコンサルタントの貢献が期待される。アーバンデザインセンターは理想だが、地元のコンサルタントは、多分野の専門知識に加え、実績に裏付けられた「縁」を有する。人との縁、土地との縁で、人とプロジェクトをつなぎ、地域のまちづくりに貢献することは地元コンサルタントの責務と考える。

最後に、先達の加藤源氏の言葉を記し、指針とする。「コンサルタントには3種ある。1. 行政の下請け、2. 自分の考えを述べる。3. 業務を組み立て牽引する。3になるように（加藤源）＊」。

\*出典：公益財団法人日本都市計画学会：都市計画293、2011

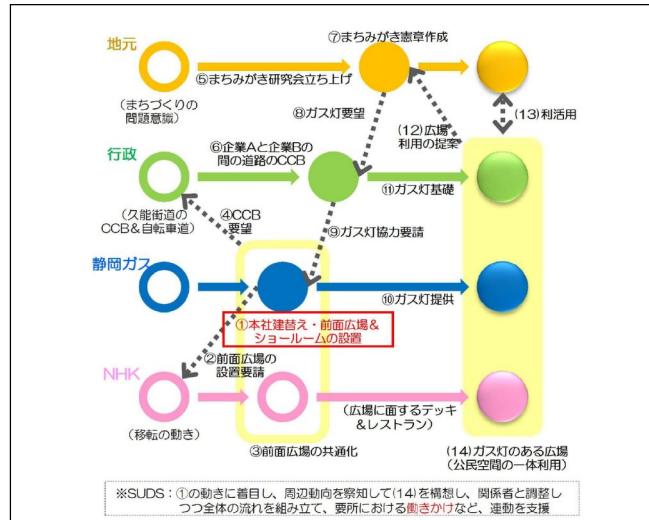


図-5 「ガス灯のある広場」の実現の道のり



図-6 久能街道まちみがき憲章